

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

大阪城に臨む学び舎で、「強き信念(まこと)・高き理想(のぞみ)」の理念のもと、人格の完成をめざし、民主的な社会の形成者として、個人の価値を尊び責任を自覚し、次代の日本をリードする人物を育成する高等学校 1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、高邁な志で自己実現の達成を図る学校 2. 知・徳・体の調和のとれた教育によって、仲間とともに活動する喜びを知り、真摯な取り組みを称え合う経験の積み重ねから、豊かな人間性を涵養する学校 3. 日々の教育活動に加え、充実した海外プログラムなどによって、豊かな国際感覚を身に着けた、国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校

2 中期的目標

1. 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、高邁な志で自己実現の達成を図る (1) 新たな大学入試制度に対応し、学習指導要領を踏まえた教育課程を円滑に実施する。 ア 主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。 イ 課題研究活動の内容を深化させ、探究的な学びの充実をはかる。 (2) グローバル・リーダーズ・ハイスクール(GLHS)、スーパーサイエンス・ハイスクール(SSH)第Ⅳ期としての教育内容を充実させる。 (3) 進路指導年間計画を充実させるとともにキャリア教育の充実を図る。 ア 進路検討会議の継続をはじめとした取り組みの充実と一層の進路指導の情報提供に努める。 イ 生徒の進路実現を支援し、国公立大学 70%(現浪)を実現する。(R3 63% R4 58% R5 65.5%) (4) 英語コミュニケーション能力の育成 ア 4技能(聞く、話す、読む、書く)統合型授業の充実を進め、CEFR に対応した校内スピーキングテストを充実し、実践的英語力の向上を図る。 (5) ICT 化対応の教育の推進と効果的な 65 分授業を実施する。 ア GIGA スクールの実施、生徒1人1台端末に合わせた、授業、その他の学校教育活動の ICT 化を進める。 イ 教員研修の充実等により効果的な 65 分授業にする。 2. 知・徳・体の調和のとれた教育によって、仲間とともに活動する喜びを知り、真摯な取り組みを称え合う経験の積み重ねから、豊かな人間性を涵養する (1) 学習と学校行事・自治会活動・部活動を両立させうる生徒を育成する。 ア 1年次部活動加入率 90%以上を維持する。(R3. 92% R4.103% R5109%) イ 取り組み内容の精選を行い、自主的活動全般のレベルを上げ、意欲につながる充実感を持たせる。 (2) あらゆる場面で、人を支える意識・人権尊重の意識の向上に努める。 (3) 図書館の活用促進・読書指導の充実を図る。 (4) 通級指導を全校体制で取り組み、学校教育全体のユニバーサルデザイン化を進める。 3. 日々の教育活動に加え、充実した海外プログラムなどによって、豊かな国際感覚を身に着けた、国際社会に貢献し得る人間の育成を期す (1) ボランティア体験活動や授業や行事などを通じて、社会貢献の意識を高める。 (2) 海外研修やオンライン・オンサイト研修などにより、国際感覚の向上に努める。 (3) 周辺地域、学校の教育活動に関連した関係諸機関との連携を充実させていく。 4. 働き方改革の推進 分掌間の調整を進め、校務処理等の仕組みを見直し、効率化を進め業務負担軽減をはかる。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和6年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
生徒アンケートでは、ほとんどの項目で 90%を超える肯定的評価であり、「授業」「自治会・行事」「部活動」「相談・支援」「いじめ対応・人権尊重」の項目においては、95%を超える肯定的評価を得ている。昨年度より評価が 10%近く上昇したのは「国際交流」の項目である。これは、海外研修の拡充と参加生徒の研修報告会の実施、本校に来校した海外校との交流を企画・実施したことが要因と考えられる。次年度は高校生国際科学会議の企画も進めており、国際交流のさらなる充実を図っていく。 保護者アンケートにおいても、多くの項目で 90%以上の肯定的評価を得ている。「授業参観・行事参加」の項目が昨年度より 6 %近く上昇する一方で、「設備・学習環境」の項目が約 5 %低下した。今年度公開授業を充実させ、多くの保護者の方にご来校いただけたが、その分設備面で改善の余地があると感想を持たれた方が増加したと考えられる。ニーズを把握し、改善可能などところからよりよい環境づくりを考えていく必要がある。 教職員アンケートでは、多くの項目で昨年度より評価が上昇したが、中でも「各教科で指導方法の話し合いがなされている」が 68.6%から 85.2%と大幅に上昇している。昨年度立ち上げた学力向上 PT による「教科での議論を増やしていこう」という趣旨の提言が、今年度に成果として表れているものと考えられる。	【第1回 令和6年7月10日実施】 ・数十年前はあまりなかった発表活動にとりくむ機会が多い。勉強とは自分でやっていくものであるという感覚を高校生の時期に身につけることが大切。発表活動等が自己学習力や自分で学習を切り開く力につながっているのではないか。正しい方向性に感じられた。 ・大手前高生だからこそ、偏狭な視野に立つのではなく、人権感覚を身につけ、ベーシックな部分を身につけてほしい。スクール・ミッションに立ち返って教育活動を振り返っていただきたい。 【第2回 令和6年10月28日実施】 ・(課題研究の授業見学を受けて) 1年経っての最後のアウトプットが大事だと思う。外へ発表することで大手前の知名度も上がるのでは。生徒のモチベーションは上がるであろう。 ・テーマを決めるまでの過程がとても大事だと思う。見学していて楽しそうだった。 【第3回 令和7年2月17日実施】 ・社会の変化を踏まえ、エビデンスチェックの重要性を生徒に教えるべき。 ・学校教育自己診断の質問項目に「環境問題」に関するものがあるが、「環境」とは自然環境だけでなく、「生徒を取り巻く環境」という意味合いもある。高校生時代に金融リテラシーを学ぶ機会があればと感じている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 5 年度値]	自己評価
1 基礎学力を充実させ、自己教育力を高め、 高邁な志で自己実現の達成を図る学校	(1) 学力の充実と進路希望の実現			
	ア 学習指導方法の更なる工夫と改善	ア 授業改善 ① 昨年度よりの SG(small group)システムを引き続き実施。グループ単位で日常的な授業見学や研究授業を実施し、積極的に授業改善に取り組む ② 学習到達度の低い生徒に対する授業の工夫や、補習・講習の充実に努める。 ③ 生徒1人1台端末に対応した効果的な指導方法を研究する。 A. 授業改善研修の実施 B. 定時制教員や他校教員との合同研修の実施	・授業アンケート肯定評価の向上(88.6%) ・学校教育自己診断における以下の項目の肯定度の向上 「興味深い授業」[94.5%] 「到達度の低い生徒への指導」[64.7%] 「発表する力」[90.9%] ・授業改善研修実施 ・合同研修の実施3回[4回]	・授業アンケート肯定的評価は 88.0%、(△) ・学校教育自己診断の各項目については、 (生徒)興味深い授業 96.9%、発表する力 94.0% (教員)到達度の低い生徒への指導 74.1% 生徒(○)、教員(○) ・ひき続き「SG(small group)システム」として、教科・学年・分掌・年齢・経験を混ぜた6～7人のグループによる、相互授業見学や研究授業やバズセッションを実施(○)、 ・定時制との合同研修2回、他校教員も交えた合同研修2回計4回実施。(○)
	イ 全員が課題研究に取り組むための指導体制の確立	イ SSH 第Ⅳ期にふさわしい 課題研究の指導体制の強化 ① SS コースの研究レベルの向上 ② LS コースの指導プログラム作り ③ SS.LS コースの生徒が切磋琢磨しともに伸びる仕組みづくり。	・コンクール受賞数の増加[9件] ・マスフェスタの実施充実 ・課題研究発表会を SS.LS 合同実施で2回実施、その際の相互評価の仕組みを作る。 ・学校教育自己診断 「GLHS、SSH の取組み」肯定率の向上 GL[生徒 85.0%、教職員 74.0%] SSH[生徒 84.95%、教職員 86.0%]	・科学の甲子園6位(6人)、学生科学賞大阪府教育委員会賞(1組3人)、大阪サイエンスデイ最優秀賞(1組5人)、京都・大阪マスインターセクション奨励賞1人、数学オリンピック本選1人、生物オリンピック本選1人、情報オリンピック本選1人、女性部門本選1人。(◎) ・マスフェスタ(全国数学研究発表大会)を本校主催で、実施し、全国から 45 校 78 発表、本校生を除く参加者約 350 人で実施。 ・課題研究発表会は SS/LS 合同実施、見学の一年生も全員出席として実施(延べ3回)。(○) ・GLHS 生徒 89.2%教職員 86.5%、SSH は生徒 87.2%教員 90.7%となり、生徒の肯定度は3年連続で上がり、教職員の肯定度は昨年度から大幅に上昇している。 生徒(○)教職員(○)
	ウ 明確な進路目標をもたせるための指導と、進路実現を図るための指導の充実	ウ 進路指導 ① 集中セミナー、京大研修・阪大研修の充実 ② SSH 事業における研修やマスフェスタなどの実施および外部への普及 ③ 進路実現に向けた研修や講習の実施	・稼業日自習室開室日における利用者増、および土曜日の自習室等の在り方の検討 [30 人／日] ・12 月進路検討会議の実施 ・国公立進学率の向上[現浪計 65.5%] ・共通テスト後の進路別講習の実施	・1年京大研修、2年阪大研修を実施。 ・稼業日自習室開室日の平均利用人数は、(35 人／日) さらに、土曜日の自習室開放を7回実施。2年生で、始業前に自教室以外で自習できる室を設定。(◎) ・進路検討会議の実施(○)、1月の共通テスト後の講習を、個別試験対策を強化し実施(○)。 ・国公立大学進学者:60% (△) ・数学勉強合宿を春季休業中に実施予定(参加者 283 人)。
	エ 英語4技能の身につけるための取組みの充実	エ 英語4技能の取組み ① 4技能を測る校内テストの充実 ② 英語運用能力の向上	・授業内スピーキングテストの継続 [3年間で延べ 10 回] ・3年生のうち CEFR B2レベル相当以上の生徒の割合 100%の維持	・スピーキングテストは延べ 16 回実施。(◎) ・CEFR B2レベル相当以上の生徒の割合 100%(○) ・シンガポール GL・語学研修を実施。 ・国内の大学・大学院留学生を招いて5日間交流・研修を行うグローバルスタディーズプログラムを引き続き実施。
	オ ICT 化の活用と65分授業の効果的な実施	オ アクティブラーニング ① 授業の ICT 化の促進と密度の濃い 65 分授業の実施	・学校教育自己診断の関係項目の向上[生徒 88.9%、教職員 84.6%]	・ICTについては、学校教育自己診断肯定度は、生徒 94.8%、教職員 92.3%となり、どちらも昨年度から5%以上上昇。(○)

府立大手前高等学校

2. 知徳体の調和のとれた教育によって、仲間とともに活動する喜びを知り、真摯な取り組みを称え合う経験の積み重ねから、豊かな人間性を涵養する学校	(2) 豊かな人間性の涵養			
	ア 学校行事や自治会・部活動の取組み充実	ア 行事と自治会・部活動の充実 ① コロナ対応でできず経験した生徒がいない行事などを復活・再構築により充実させる ② 歓迎行事を充実等により部活動入部を促進する	・学校教育自己診断の肯定度の向上 [HR91.4 %、行事 95.3 %、自治会 93.8%] ・学校生活満足度の向上[94.4%] ・1年時部活動未入部率 10%以下	・コーラス大会・体育祭・文化祭・等すべて生徒主導で実施。 学校教育自己診断では HR91.3%と昨年度並み、行事 96.4%、自治会 95.3%といずれも上昇している(○) ・学校生活満足度 95.5%(○) ・部活動加入率 111%(○)
	イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上	イ 挨拶の励行と自己管理能力の向上 ① 5分前集合の徹底により遅刻欠席を減少させる	・遅刻者数の10%減少[1873回] ・学校教育自己診断の肯定度の向上[95.7%]	・遅刻者総数は、2075件 (△)
	ウ 教育相談と通級指導の連携による生徒支援の充実	ウ 生徒支援の充実 ① 教育相談体制を充実させる ② 通級指導教室での支援を充実させる	・SCによる相談活動20回[20回] ・通級指導の校内体制の充実	・悩みや相談対応の、肯定的回答は97.0%と引き続き上昇しており、教育相談活動の充実を図った。(○) ・SC来校22回。別途SCにPTA研修で講演もいただいた。(○) ・通級指導について一人ひとりの実情に合わせ丁寧に対応し、支援が充実している。(○)
3. 日々の教育活動に加え、充実した海外プログラムなどによって、豊かな国際感覚を身に着けた、国際社会に貢献し得る人間の育成を期す学校	エ 人権尊重の意識の向上	エ 人権HRなどの充実 ① 仲間の思いのわかる集団作りを進める ② いじめや人間関係トラブルへの組織的対応	・学校教育自己診断の肯定度の向上 [人権学習96.1% いじめ対応94.00%]	・人権学習96.4%、いじめ対応95.3%と高い肯定的回答がさらに増え、人権意識の向上をはかることができた。(○)
	オ 図書館の活用促進	オ 図書館の活用 ① 委員会活動の活性化と利用促進	・委員会活動実績と人数の維持[40人]	・図書委員は46人で、新聞5紙と英字新聞を常に読み比べられるよう、図書室前に新聞コーナーを作るなど、工夫を重ねている。(○)
	(3) 社会貢献活動の推進			
	ア 社会貢献の意識の高揚	ア 社会貢献活動の充実 ① ボランティア体験活動の実施	・学校周辺清掃活動を生徒主導で計画し、参加人数の増加[延べ300人]	・主に部活動をベースに、曜日や時間を決めて、校外の清掃ボランティアをする団体が複数でき、10回以上(クラブによっては毎週)延べ人数300人以上で実施。(◎)
4. 働き方改革の推進	イ 国際感覚の向上	イ 国際教育の推進 ① グローバルリーダー研修・語学研修等の海外研修の実施 ② 姉妹校や連携校との交流(国際科学会議関連) ③ 国内留学生との交流などの実施	・各研修を実施し、同窓会のご協力により生活困窮生徒が参加できる仕組みを引き続き実施する。 ・企画の満足度90%以上[研修満足度アンケート[100%] ・マスカンプの実施 ・各取組みの実施	・海外研修において価格が高騰する中、同窓会の支援を一律でなく生活困窮生徒と成績優秀生徒に絞って傾斜配分する仕組みを引き続きお願いして実施。支援生徒の肯定度は100%。(◎) ・グローバルスタディーズプログラム参加者アンケートの満足度100% (○) ・昨年度1泊2日で行っていたマスカンプを2泊3日に拡充し海外の講師を4名招き実施。
	ウ 地域と連携した教育活動の充実	ウ 地域との連携 ① 親学習、弁護士会、税務署などの地域を舞台にした教育活動の実施	・親学習・弁護士会と連携した人権研修を実施、税務署と連携した教育活動の実施。	・家庭科での幼稚園交流はコロナ禍依頼再開することができた。弁護士会・税務署との連携活動は実施できた。中学校への説明会や出前講義実施。(○)
	(4) 働き方改革の推進			
	ア 校務処理の効率化	ア 校務処理等の効率化を進める	・時間外勤務の削減前年度比10%減[前年度比11%減]	・前年度比10%増(△)
	イ 時間外在校時間縮減	イ 部活動方針を遵守するなど時間外勤務の縮減を図る		